

第 66 回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

令和 7 年 10 月 21 日（火）13:00～15:00

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

（1）委員

鈴木部会長、片岡部会長代理、青木委員、石井満委員、石井（由）委員、遠藤委員、白坂委員（オンライン）、新谷委員、中須賀委員（オンライン）

（2）事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 風木局長、渡邊審議官、西野参事官、三上参事官、吉田参事官、猪俣参事官、井出参事官、奥田企画官

（3）関係省庁

国家安全保障局 岡本審議官

内閣衛星情報センター 尾西調査官

総務省国際戦略局 扇課長

外務省総合外交政策局 池田課長補佐

文部科学省研究開発局 島村課長補佐

経済産業省製造産業局 高濱課長

防衛省防衛政策局 高橋参事官

防衛省整備計画局 荒課長

（4）ESRI ジャパン

下田氏、石本氏、神保氏

4. 議事要旨

（1）議題 1 「宇宙領域防衛指針のフォローアップについて」、防衛省による説明の後、次のような議論があった。

○ 海外の防衛関係者やシンクタンクにおいても、日本が宇宙領域防衛指針を策定したことに対する関心は高い。こうした取組を国内外に示していくことが、抑止力にもつながるのではないか。

（2）議題 2 「防衛省次世代情報通信戦略について」、防衛省から資料に基づき説明した後、次のような議論があった。

○ 防衛省がこういった方針を打ち出すことは非常に画期的なこと。今後はいつ、何を構築するのか具体化していくことが必要ではないか。

○ 戦域においてネットワークを構成する際に、どれだけの通信量が必要になるか具体的に示

すことで、民間事業者等もこういった回線を構築すべきか予見性が高まるのではないか。

- システムの設計・構築においては、定性的な面のみならず定量的な要件を示すことが必要ではないか。また、当初から完璧なシステムを追求するのではなく、使用しながら改善を図っていくことが重要ではないか。
- 通信容量やレーテンシーといった性能を追い求めることも重要だが、早期の導入やサプライチェーンなども考慮し、バランスをとることが重要ではないか。
- 次世代情報通信戦略の中で、衛星光通信についても言及されているが、光通信端末の開発においては規格の標準化を図ることが必要ではないか。

(3) 議題3「衛星コンステにおけるオーケストレーションについて」、内閣府及びESRI ジャパンから資料に基づき説明した後、次のような議論があった。

- ユーザーからの要求に応じて迅速に撮像し、素早く情報を集約してユーザーに伝える体制を作ることが重要。防災ドリルにおける取組で良い成果が得られているため、これを反映してもらいたい。
- 衛星画像からデジタルツインを構築する際は様々な衛星データを処理する必要があるが、衛星ごとに個癖があり、キャリブレーションを行うことが必要ではないか。

(4) 議題4「公共専用信号受信機の保全措置について」について、内閣府による説明の後、次のような議論があった。

- 輸出管理については十分な検討がなされたものと認識。今後はジャミング等への対応についてもさらに検討を進めていくことが必要ではないか。

以上